

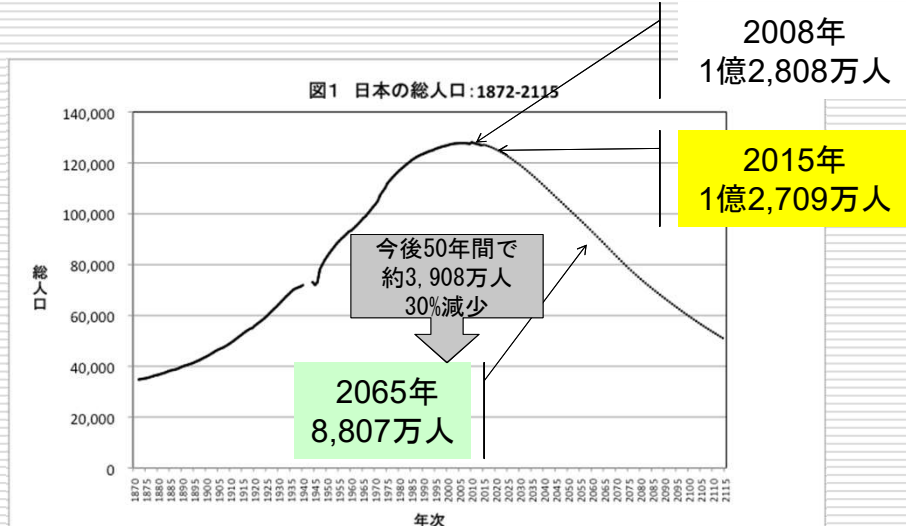
日本・札幌での取組み： 少子高齢化に対応した高齢者ボランティアの推進

原 俊彦 （札幌市立大学 教授・日本人口学会 理事）

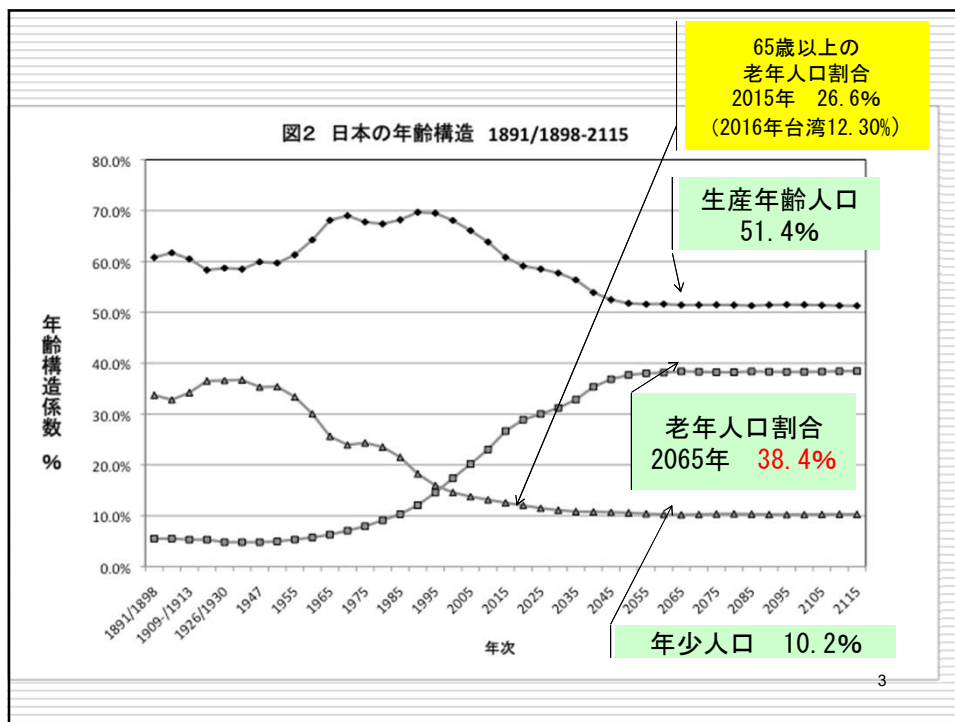
「活力あるボランティア、栄誉ある台湾」－多元的ボランティア推進計画
ボランティアサービス国際会議
2017年8月6日（日曜日）台中市国立台中科技大学

第2分科会：高齢化および少子化に対処するためのボランティアエリア・サービス法案の推進
（13:30-15:30）

1. 日本の人口減少・少子高齢化



出典：総務省統計局監修（2006）「新版 日本長期統計総覧 第1巻」日本統計協会
国立社会保障・人口問題研究所、2010-2014年は「人口統計資料集2017」の実績値。2015年から2065年までは「日本の将来推計人口（平成29年推計）中位推計」2066年から2115年は参考推計結果による。



高齢者ボランティア推進の必要性

- ボランティアの主力: 若者から高齢者にシフト
 - 人口減少⇒ボランティアに動員できる絶対数の不足
 - 少子高齢化の進行⇒高齢者が人口の40%近くを占める。
- 高齢者の生きがい: ボランティアを通じての社会参加
 - 平均寿命・健康寿命の延伸⇒元気な高齢者の増加
 - 退職から死亡までの期間の長期化⇒第二の人生をどう生きるか？
- 高齢者の位置づけ: 「支えられる」側から「支える」側へ
 - 高齢福祉制度の見直し⇒受給者から供給者へ
 - 社会的役割(第二の職業)としてのボランティア⇒専門性、経験・知識の活用

2. 札幌市の取り組み



しかくは、
いらない。

社会への「さんかく」に
「しかく」なんていりません。
お仕事や子育てを卒業したら
次の社会参画、はじめませんか。
あなたの色を、
あなたの経験を、
生かせる場所がきっとあるはず。
あなたの「さんかく」
応援します。



さっぽろ
カラフル
さんかく
プロジェクト

いつまでも社会参画できる街へ

<https://www.youtube.com/watch?v=P61ziuLGad4>

5

さっぽろカラフルさんかくプロジェクト

- キャッチフレーズ: □ (四角しかく⇒資格) は入りません。どなたでも △ (三角さんかく⇒参画) できます。
- 「超高齢・人口減少社会にあっても社会の安心と活力を高めていくためには、高齢の方々が健康と自立した生活を保ちながら、地域の一員として社会・経済を支え、生涯現役で活躍できることが欠かせないものとなります。」
- これからの高齢者の「多彩な社会参画」=「カラフルさんかく」を応援するため、環境づくり、仕組づくりを進める取組です。
- 「札幌市高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会」「社会参加に関する市民意識調査」「高齢者の社会参加を考えるワークショップ」

札幌市：高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会

- 2006年4月-8月まで7回開催。
- 高齢者の社会参加の在り方を見直す
- 社会参加に関する市民意識調査の実施
- 従来の社会福祉関連施策の再検討
 - 長生きした「お祝い」から社会参加の「プラットフォーム」へ
- 敬老優待乗車証(70歳以上の高齢者への市営交通補助制度)の見直し⇒対象人口の増加・市の福祉予算の大半を占める⇒高齢者の社会参加を推進するためのポイントカード制度の提案など。

3. 大学での取り組み

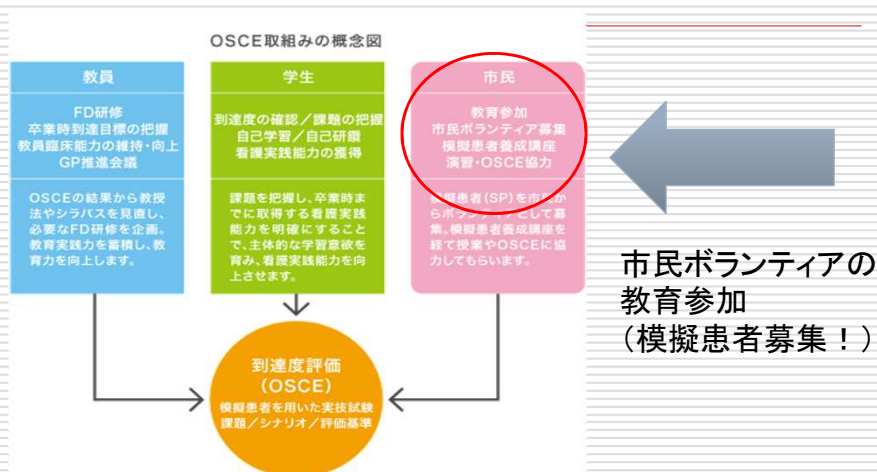


文部科学省

COC:「地(知)の拠点整備事業」

- 2013年4月から実施
- 文部科学省の指定事業「地(知)の拠点 COC: Center Of Community」整備事業
- ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業
- 大学を地域社会の知識・交流拠点とするために、健康と福祉を中心に、地域社会の担い手(特に高齢者や若者・学生)を育成する。
- 旧真駒内緑小学校(廃校校舎)を活用した「札幌市立大学COCキャンパス まちの学校」をオープン。
- 「まちの教室」を中心に高齢者の専門性、経験・知識の活用を提供する。

看護学部:OSCE(オスキー: Objective Structured Clinical Examination)客観的臨床能力試験



文部科学省： 質の高い大学教育推進プログラム

- 2006年4月から実施
 - 文部科学省「質の高い大学教育推進プログラムProgram for Promoting High-Quality University Education」通称：教育GP (Good Practice)
 - 看護学部：OSCE (オスキー：Objective Structured Clinical Examination)「客観的臨床能力試験」制度導入
 - 学生の臨床能力の向上を、随時、コンピュータに記録し、客観化するシステム
 - 模擬患者となる市民ボランティアを募集、模擬患者養成講座を開催し登録し、高齢者を中心に組織化。学生の実践力向上に貢献してもらっている。
-

4. 少子高齢社会への対応

- ボランティアサービスの主力は高齢者である
 - あなたが主役という呼びかけ(札幌市のポスター)
 - 従来型高齢者福祉サービスの見直し(受け身型から参加型へ) ボランティア活動とのリンケージ
 - 知識・専門性・経験を生かせる活動
 - 積極的な参加を促すプラットフォームづくり(インセンティブが必要)
 - 有料のサービス需要の開発
-

参考文献・資料

HARA, Toshihiko (2014): A Shrinking Society: Post-Demographic Transition in Japan, Series: SpringerBriefs in Population Studies 2014, VI, 94 p. 20 illus. ISBN 978-4-431-54809-6

総務省統計局監修 (2006)「新版 日本長期統計総覧 第1巻」日本統計協会

国立社会保障・人口問題研究所 (2017a)『人口統計資料集2017』
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2017.asp?chap=0>

国立社会保障・人口問題研究所 (2017b)『日本の将来推計人口 (平成29年推計)』
http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp_zenkoku2017.asp

札幌市 (2017 a)「さっぽろカラフルさんかくプロジェクト (CF)」
<https://www.youtube.com/watch?v=P61ziuLGad4>
札幌市 (2017b)「高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会」
<https://www.youtube.com/watch?v=P61ziuLGad4>

札幌市立大学 (2017a)「地(知)の拠点整備事業 (大学COC事業)」とは?」
<http://coc.scu.ac.jp/about/>
札幌市立大学 (2017b)「2015年度 まちの先生 年間活動記録」
https://www.youtube.com/watch?v=0b_dgETpHPg
札幌市立大学 (2017c)「質の高い大学教育推進プログラム (教育GP)」
<http://www.osce.scu.ac.jp/>

連絡先：原 俊彦 (はら としひこ)
札幌市立大学 デザイン学部 (教授)
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目 Tel: (直) 011-592-5860 (代) 011-592-2300
FAX: 011-592-2374 E-mail: t.hara@scu.ac.jp <http://faculty1.scu.ac.jp/hara/>

Toshihiko HARA
School of Design, Sapporo City University, Professor (Ph.D. in Sociology)
Geijutsu no Mori 1, Minami-ku, Sapporo 005-0864 Japan
TEL. +81-11-592-2300 / FAX. +81-11-592-2369
Dialin. +81-11-592-5860
E-Mail: t.hara@scu.ac.jp <http://faculty1.scu.ac.jp/hara/>